

この一年



2022(令和4)年も残すところわずか。皆さんにとってどんな年だったでしょうか。新型コロナウイルス感染の拡大はいまだ出口が見えず、前半はまん延防止等重点措置の発令、後半は第8波も予想され医療従事者への負担が急増しましたが、国内、道内では大規模催事が開催され始め、予防対策の徹底とワクチン接種、感染後の新たなシステムによるウイズコロナという新しい時代を確実に迎えたようです。まちも人も生きています。停滞してはいられません。白老でも今年は、「〇年ぶり」というイベントの復活や従来に近い人の流れが見え始めました。この一年の主な出来事を振り返りました。(広報編集室)



1月

9日の町成人式は、式の飲食を伴う会合に参加した新成人のコロナ感染に起因するクラスター(集団感染)が発生。2月には町立病院が1週間ほど外来・健診・検査をコロナで休診。町民に今年もコロナ禍に揺れる予感を与えました。14日には星野リゾートが全国で展開する温泉旅館ブランドの「界ポロト」がポロト湖畔に開業。町とのパートナーシップ協定に基づき、アイヌ文化を前面に押し出した景観とおもてなしの温泉宿。町民価格で利用できる日帰り温泉「〇湯(まるのゆ)」も評判。



念願の町立病院建設は事業者が決まり、基本協定書を締結。令和6年の開業に向け本格的なスタートを切りました。

町立病院改築事業が本格的にスタート

2月

アイヌ民族文化財団の文化賞、文化奨励賞に町内の2人が選ばれ、しらいおい食育防災センターが郷土料理・伝統料理をテーマにした道学校給食コンクールで最優秀賞を受賞する明るいニュースが続きました。

3月

NTT東日本と町で進めていた虎杖浜の光ファイバー未整備地区で光ブロードバンドサービスの提供が開始され利便性が向上。大昭和製紙・日本製紙OB会が惜しまれつつ解散。白老町アイヌ施策基本方針、第2次白老町商業・観光振興計画を策定。



町内の養鶏場で鳥インフル発生、再開喜ぶ声

4月

1日からの民法改正に伴い、成人年齢が18歳に引き下げられました。令和5年町成人式は「20歳を祝う会」に名称変更し、従来通りの年齢で開催します。ごみの収集日・回数、分別方法が変更。協力を促しました。介護サービスの多種多様化にこたえるため、町立特養ホーム寿幸園を民設民営へ。16日、町内の養鶏場で高病原性鳥インフルエenzaが発生。関係者や従業員が奮闘で24時間体制の防疫措置を行い、5月19日にすべての防疫措置が終了。約51万8千羽を処分しました。町内の観光グルメスポットの再開を喜ぶ声が大きくなり、支援助団体のNPO法人お助けネットが運営するすくすく3・9が、子育てママたちの思いに寄り添い15周年を迎えました。大町商店街に牧場直営の新店舗が開店。

5月

ポロトミントラに町整備の物販施設3店舗がオープンし、地域経済活性化にとぎわい創出に一役。8日には松野博一官房長

大型客船、相次いで白老港に入港

6月

官がウポポイを視察。アイヌ民族文化財団職員や道内アイヌ関係者などと車座懇談会を開催。アイヌ政策の重要性を再確認していただきました。町内運行の各種公共交通で利用できる共通回数券が登場。利用者は「便利でお得」と歓迎。JR東日本の豪華列車「四季島」の白老駅への停車が始まる。スマートな車体が町内を走る度に羨望のまなざし。



町内の最大イベント! 第32回白老牛肉まつりがまたまた中止。シヨック! 「ばしふいづくびいなす」 「にっぽん丸」が相次いで白老港の岸壁に姿を現し、5年ぶりの豪華客船入港が町民を勇気づけました。北海道が新たに公